



令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【愛媛県】

学校名【宇和島市立 津島中学校】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・③④・⑤（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	宇和島市立津島中学校 2年生 2クラス 60名
3 展開の形式	<p>（1）学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>（2）地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 （ねらい）	<p>オリンピック・パラリンピック教育推進事業を通じて、スポーツ活動に興味・関心を持つ。</p> <p>共生社会についての知識や理解を深め、人権意識の向上を図る。</p>
5 取組内容	<p>パラリンピックについては、保健体育科の学習を通じて理解を深めてきた。また、人権・同和教育の学習を踏まえ、インクルージョンについての知識や理解を深められるように、事前学習を進めた。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <p>総合的な学習の時間では、5校時に講師の講演、6校時に体験学習を設定して取り組んだ。</p> <p>講師として松山盲学校の矢野繁樹先生（シドニーパラリンピック陸上競技400mリレー銀メダリスト）、松山市消防署職員の瀧本啓太先生（伴走者）をお迎えした。また、愛媛県庁職員木崎美江さん、高田有里子さんに体験学習のサポートをしていただいた。</p> </div> <div style="flex: 1;">  </div> </div> <p>5校時は講師の矢野繁樹先生の生い</p>



立ちや陸上競技に取り組むようになられた経緯、また、パラリンピックを目指され、実際に出場するに至った様子をお話いただいた。

また、瀧本啓太先生が伴走者として走るようになった経緯もお聞かせいただいた。生徒は、矢野繁樹先生がパラリ

ンピックメダリストになられたことやその過程における努力や精神力について非常に感銘を受け、自分たちが取り組んでいる部活動での在り方について振り返ることができた。また、パラリンピックや短距離走の詳細について、新たな知識を得ることができ、パラリンピックについて、より興味や関心を持つことができた。



6校時は、矢野繁樹先生、瀧本啓太先生の御指導より、体験学習を行った。友達とのペアで、交互にランナーと伴走者となり、



実際にゴーグルを着けて走った。ゴーグルで視界を遮られた状態で走ること、恐怖心を抱く生徒も多かった。

講師の先生方や県庁職員の方のアドバイスを受け、友達との連携を工夫しながら走ることができた。また、走るだけではなくスキップ等

も行ったが、スムーズに動くことができないことに戸惑う生徒も多かった。

生徒からは「信頼関係がないとできない。」「常に相手のことを考えていないとうまくいかない。」という意見が出された。視覚障がいのある人と、伴走者が信頼関係で結ばれ、目標を同じくしないと、競技が成立しないということに驚くとともに、それを実際に競技として取り組まれている矢野繁樹先生や瀧本啓太先生も姿勢に圧倒されていた。



学習のまとめとして、矢野繁樹先生からは「障がいは、人と人との間にある」ということを教えていただいた。互いに理解し合い、歩み寄ることで人と人との間にある「障がい」は解消される。それを理解し、人との関係をより良いものにしていく努力が必要

	<p>であることを述べられ、生徒たちの深い学びとなった。また、自分が部活動で試合に臨む際に、緊張をして力が出し切れないので、どうすればいいのかを矢野繁樹先生に質問する生徒がいた。</p> <p>体験学習が終わった後も矢野繁樹先生、瀧本啓太先生のところへ駆け寄り、部活動でのアドバイスをいただいたり、自分の思いや感想を伝えたりする生徒もいた。</p> <p>体験学習後の生徒の感想として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「実際にゴーグルをして体験しましたが、前に進むのが怖かったし、友達の伴走があっても不安でした。矢野さんが伴走者の方を信じて走りきることはすごいなと思います。」 ○ 「視界をなくして走るのはとても怖く、勇気がいりました。」 ○ 「障がいは人の中にあるのではなく、人と人との間にあるという矢野さんの言葉が心に残りました。世界には障がいのある方いますが、みんなが障がいに気づき、いっしょになれたとき、世界はどのように変わっていくのだろうと思いました。」 ○ 「仲間と信じあっているから、できることなのだと思います。ゴーグルを着けて走るのは難しかったです。」 ○ 「一人一人に思いやりがあったら、障がいはなくなるのだと考えました。」 ○ 「矢野さんが、大会などの経験を人生とつなげて話してくださいだったのでとても分かりやすかったです。体験学習では、自分が伴走のときには、相手と合わせるのが大変でした。自分がゴーグルを着けたときは、怖かったです。」 ○ 「矢野さんのお話を聞いて、障がいをつくっているのは、私たちなのではないかなと思いました。」 <p>などがあった。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>体験学習を実施する直前に、人権・同和教育強調月間を設けて人権に関する学習を進めていたことから、体験学習とこれまでの学びが重なり、生徒の心に残る学習となった。</p> <p>講演だけでなく、実際に体験することによって、講師の先生方の努力を身近に感じることができ、生徒が取り組んでいる部活動への思いが高まった。</p> <p>オリンピックやパラリンピックの意義やスポーツのすばらしさ、人と世界とのつながりを感じることができ、視野の広いものの見方、人権感覚を醸成することができた。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>2年生60名の学習としたことから、全員が体験できる活動となった。</p> <p>県庁職員の方にも御協力をいただいたことから、活動を円滑に進めることができた。</p> <p>前年度の車椅子バスケットボール選手による講演との継続した学習により、生徒の意識が高まった。</p>



<p>8 主な課題等</p>	<p>学習計画の立案や事前学習の設定もあることから、実施の前年度から準備を行いたい。</p> <p>地元出身のアスリートとの交流が、生徒の興味や関心を喚起できると思われる。</p> <p>オリンピック・パラリンピックへの興味や関心を高めるために、継続した広報活動や教育事業を行う必要がある。</p> <p>県下の学校の部活動との連携を図り、スポーツ活動の活性化につなげたい。</p>
<p>9 来年度以降の 実施予定</p>	<p>事業が継続するようであれば、お願いしたい。</p>